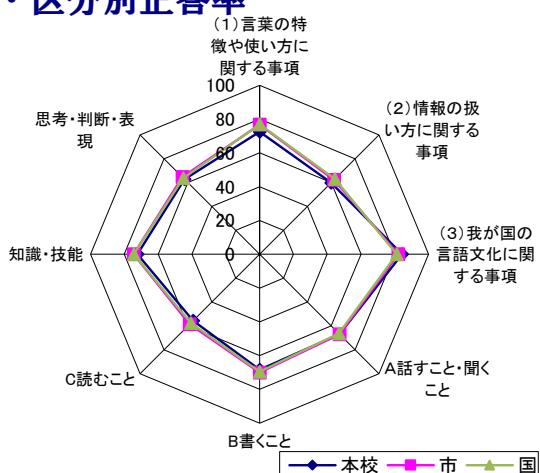


宇都宮市立豊郷南小学校 第6学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、国と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	72.5	76.7	76.9
	(2)情報の扱い方に関する事項	59.8	62.4	63.1
	(3)我が国の言語文化に関する事項	84.3	82.1	81.2
	A話すこと・聞くこと	67.0	67.0	66.3
	B書くこと	68.3	70.0	69.5
	C読むこと	55.6	58.6	57.5
観点	知識・技能	72.3	74.5	74.5
	思考・判断・表現	62.8	64.6	63.8



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの	
		今後の指導の重点	
(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> 領域の正答率は、72.5%で国・市の正答率を3~4ポイント下回っている。 〇漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかを見る問題では、「好み」の漢字を書くことができる割合が国・市の正答率を上回っている。 ●上と同様の問題では、「暑い」の漢字を書くことができる割合が国・市の正答率を大きく下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 音読や読書など、漢字に多く触れる機会をもつとともに、漢字練習を継続的に行えるように指導する。 ・日常的に敬語を使う意識をさせ、正しい使い方や場面を覚え、身に付くように指導する。 ・読みが同じでも意味が異なる漢字での誤答が多く見られたので、意味の違いを強調して授業を行う。 	
(2) 情報の扱い方に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> 領域の正答率は、59.8%で国・市の正答率を2~3ポイント下回っている。 ●情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかを見る問題では、国・市の正答率を下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「話すこと」「聞くこと」の授業において、資料から分かることを簡潔にまとめたり、目的や相手に合わせて文章を簡単に書いたりする力を身につける指導を行う。 ・資料から正確に情報を収集することができるようになるために、テストを受ける際は落ち着いて資料や問題文を読み、丁寧に解答する習慣を身につける。 	
(3) 我が国の言語文化に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> 領域の正答率は、84.3%で国・市の正答率を3~4ポイント上回っている。 〇時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くことができるかどうかを見る問題では、国・市の正答率を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書や読書の中で使われている語句や、日常使っている語句について、意味や語源を国語辞典で調べる活動を取り入れ、言語文化に対する興味・関心が継続的に持てるようにしていく。 ・6学年では、国語だけでなく社会の授業で言語の由来やかな文字の誕生について学習する機会がある。文化の変化に関心をもち、時代とともに言葉が変化してきたことに 	
A 話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> 領域の正答率は、67.0%で国・市の正答率を2~3ポイント上回っている。 〇集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかを見る問題では、国・市の正答率を大きく上回っている。 ●話し手の考え方と比較しながら、自分の考え方をまとめる問題では、国・市の正答率を大きく下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も、「話す」「聞く」力を向上させるため、相手に自分の意見を発表する機会、相手の意見を聞いて自分の意見に生かす機会を授業の中で設ける。 ・国語の授業では、物語文や説明文の中で、登場人物の発言に着目し、どんな目的で発言したのかを考える機会を増やす。 	
B 書くこと	<ul style="list-style-type: none"> 領域の正答率は、68.3%で国・市の正答率を1ポイント下回っている。 〇書く内容の中心を明確にし、文章の構成を考えることができるかどうかを見る問題では、国・市の正答率とほとんど同じである。 ●自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題では、国・市の正答率を大きく下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 意見文などの文章を読む機会を増やしたり、文章をくわしく書くために必要なことを確認したりして、文章表現を豊かにする素地を養うようにする。 ・指定された長さや段落構成で文章が書けるように、授業の中でも条件に合わせて書く時間を設定する。 	
C 読むこと	<ul style="list-style-type: none"> 領域の正答率は、55.6%で国・市の正答率を2ポイント下回っている。 ●時間的な順序や事柄の順序を考えながら、内容を捉えることができるかどうかを見る問題では、国・市の正答率を下回っている。また、文章と図表を結び付けるなどして必要な情報を見つけることができるかどうかを見る問題では、国・市の正答率を大きく下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 物語文では、登場人物の心情を描写からとらえることができるよう情景描写に着目する機会を増やしたり、書かれている表現から人物像を想像したりする力が身につくよう指導する。 ・テスト等で文章を読む際は、必要だと思う情報に線を引く活動を継続して行う。 	